

鈴鹿医療科学大学 大学院

社会の期待に応える高度専門職医療人養成をめざしています

薬学研究科 医療薬学専攻

4年制博士課程

白子キャンパス



大学院薬学研究科長 飯田 靖彦

〈設置の趣旨〉

近年、三重県では、医療・健康・福祉産業（ヘルスケア産業）の創出と集積を目的とした「みえメディカルバレー構想」を推進しており、これを担う人材、すなわち医薬品、化粧品、機能性食品の開発に貢献できる人材の育成が強く求められています。本薬学研究科は、地域産業の進展に貢献できる人材育成の場であり、薬剤師及び薬剤師の資格を有する専門職業人が仕事を続けながら大学院教育を受けられるという面でも非常に期待されています。

一方、製薬業界では、画期的な新薬の開発である創薬に加え、既存の薬剤をより有効に利用するための新たな剤形の設計、適応拡大などの育薬の方向性ができています。すでに医療現場と創薬現場の密接な交流による育薬は成果を上げており、高齢化の進捗に伴い、その重要性は一層増しています。地域産業の進展に繋がると期待される育薬の発展には、臨床現場の経験と医薬品化学の知識に長けた薬剤師研究者の存在が欠かせません。そのため本薬学研究科では、薬剤師研究者を育成し、国の「地域活性化総合特区」指定を受けた三重県の産学官民連携プロジェクト「みえライフイノベーション総合特区」により本学に設立された「医薬品開発センター」と共同で創薬・育薬を行います。現在、本学は、医療施設や企業等の研究施設と共同研究を展開しており、将来的には大学病院、市中病院、薬局等、並びに医系大学との間でさらなる連携、あるいは「みえメディカルバレー構想」でのさらなる取り組みを進め、活力ある地域づくりと県民の健康、福祉の向上を支える地域拠点になることを目指しています。

高齢化が加速していく現代においては「がん治療」、「認知症治療」などでの質の高い保健と医療が望まれており、高齢者に対する適切な治療や予防を行うための病態解析、薬物治療法の模索など薬学的視点からの新しい医療貢献の創成と実践が必要とされています。これらに対応するため本薬学研究科では、臨床現場でリーダーシップを発揮し、複合的な問題・課題に対して理論的に解決することのできる人材、臨床現場における指導薬剤師として、後進の薬剤師及び学生の指導に当たることのできる優れた人材、高度な専門的知識と技能を有し、薬学の教育・研究に携わることのできる人材、今後開発されてくる新規医薬品に対応できる知識と技能を有する人材の養成を目指します。

●目次

薬学研究科 医療薬学専攻	・P3
病態解析・薬効制御学分野	・P4
薬物治療設計・管理学分野	・P5
医薬品解析・開発学分野	・P6
社会環境薬学分野	・P7
医療薬学教育部	・P8



〈建学の精神〉

科学技術の進歩を真に人類の福祉と健康の向上に役立たせる

〈教育の理念〉

知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成

〈教育目標〉

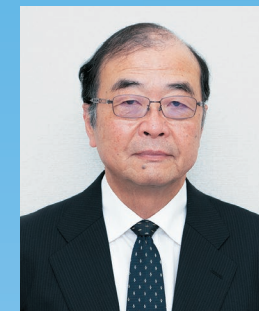
- ①高度な知識と技能を修得する
- ②幅広い教養を身につける
- ③思いやりの心を育む
- ④高い倫理観を持つ
- ⑤チーム医療に貢献する



医療科学研究科 医療科学専攻

修士課程・博士後期課程

千代崎キャンパス



大学院医療科学研究科長 太田 伸生

〈設置の趣旨〉

日本は世界に例を見ない速さで超高齢社会に突入しました。人々が健康で幸福な日々を送るために社会各方面で変革が求められる時代となっています。本学は日本で最初に設立された医療技術と福祉の総合大学であり、まさに現代社会のニーズに応える使命を担う大学であることを私たちは強く自覚しています。

20世紀半ばから、科学と技術の補完関係が社会的に強く認識されるようになりました。科学に裏付けられた技術こそが社会の進歩に貢献できるのであり、医療、福祉も例外ではありません。本学の大学院医療科学研究科は、医療科学専攻修士課程と博士後期課程を開設し、科学に裏付けられた知識と技術を修得した専門職医療人の養成を目指しています。受け入れ対象は、学部教育を終了してさらに勉強を続けたい人々と、社会に出て専門職としての経験を積んだ上で、さらに高度の知識、技術を学びたい人々です。また、学士の資格を持たない人でも、一定の実務経験があれば受験資格の認定を受けることができます。

この専攻には、救急救命学科、薬学科を除く本学の学部学科に対応した分野がおかれている他に、公認心理師・臨床心理士資格取得コースおよび細胞検査士資格取得コースを開設しています。いずれも豊富な経験と実績を有する教授陣による専門分野の講義と研究指導からなる充実した教育カリキュラムが用意されています。

これからの福祉と健康の向上をリードする人材養成に努める大学院です。意欲にあふれた皆さんの入学を歓迎します。

充実した教授陣と分野をまたがった教育指導体制

本研究科では、専攻分野以外の教員も指導に参加して効率的な指導体制が取れるように、分野をまたがった研究指導体制をとっています。理解を深めていただくために、各分野（p10～p21参照）の研究指導教員一覧を掲載しましたが、各分野に共通した内容を研究している教員をはじめ、分野外の教員を選ぶことも可能です。

●分野共通の研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
太田 伸生	感染症の新規薬剤開発、栄養と感染感受性の解析
有馬 寧	炎症発癌とその病態形成に関わる分子機構、低分子生理活性物質の免疫細胞化学
岩崎 泰正	生活習慣病関連遺伝子の転写調節および病態との関連
大西 健児	糸虫症の治療に関する研究、腸チフス・パラチフスの治療に関する研究
板谷 史郎	母子関係を基盤とする神経発達学
村田真理子	生活習慣病の発症機構の解明と予防に関する研究

●目次

医療科学研究科 医療科学専攻	・P9
放射線情報学分野	・P10
医療栄養学分野	・P11
臨床検査学分野	・P12
理学療法学分野	・P13
作業療法学分野	・P14
医療福祉学分野	・P15
臨床心理学分野（公認心理師・臨床心理士資格取得コース）	・P16
鍼灸学分野	・P17
臨床工学分野	・P18
医療情報実践学分野	・P19
看護学分野	・P20
細胞検査士資格取得コース	・P21



薬学研究科 医療薬学専攻

4年制博士課程(定員2名)

教育研究上の目的と育成しようとする人物像

【アドミッションポリシー】

6年制薬学部または大学院修士課程修了、あるいは大学院修士課程修了相当の学力を有し、医療薬学領域での指導的薬剤師または薬学研究者・高等教育教員になることを強く希望する者

本薬学研究科においては、薬学領域での高度な専門能力を発揮して医療に貢献するとともに、自立して研究する能力を備えた臨床薬剤師及び創薬・育薬を担う人材としての研究者及び教育者の養成を目的としています。具体的には、次の6つの人材養成を目的とします。

1. 地域医療におけるリーダーとしての薬剤師
2. 臨床薬学・医療薬学を指導できる薬剤師研究者(Pharmacist Scientist)
3. がん領域等の専門薬剤師を育成することのできる薬剤師研究者(Pharmacist Scientist)
4. 認知症などを含む高齢者医療に携わる薬剤師を指導できる薬剤師
5. 6年制薬学部教育課程を担当する大学教員
6. 医薬品、化粧品、高機能食品の開発に貢献できる薬剤師研究者・薬学研究者

教育課程の編成の考え方及び特色

【カリキュラムポリシー】

科学的思考に基づく問題解決能力と自立した研究遂行能力を身に付け、チーム医療、地域医療に貢献できる指導的薬剤師、および医療薬学・臨床薬学の知識を備え、高齢者医療に取り組む科学的思考・研究心・研究能力を身に付けた薬剤師研究者・薬学研究者の養成を目的とする。

本薬学研究科は、医療現場で活躍しうる人材を養成すべく、医療薬学のなかで生じる種々課題の解決、将来を見据えた新規研究への取り組みなどについて積極的に関わっていきます。本研究科の教育課程は次の4つの分野を柱としています。

- 1) 病態解析・薬効制御学分野
- 2) 薬物治療設計・管理学分野
- 3) 医薬品解析・開発学分野
- 4) 社会環境薬学分野

それぞれの分野は、1) 疾病の原因を探り効率的に薬剤を作用させる方法を探る、2) 薬の特性を踏まえて効率的な使用法を探り投薬を設計する、3) 柔軟な視点を基にした解析による既存医薬品の機能発掘および新規医薬品開発、4) がん予防、精神衛生など超高齢社会に対応する衛生薬学・疫学研究を模索していきます。入学者は6年制の学部からの進学者の他、旧制度の薬学部(4年制)を卒業された方をも想定し、入学者の状況に合わせて履修指導を行っています。

【ディプロマポリシー】

チーム医療を推進し、医療現場の諸問題を科学的に解決できる指導的専門薬剤師としての能力を持ち、かつ先進的な医療薬学・臨床薬学の研究に取り組むことのできる科学的思考・研究心・研究能力を持った人材を養成する。

【教育体制】

平日昼間の他、平日夜間並びに休日昼間にも授業又は研究指導を行います。

病態解析・薬効制御学分野

4年制博士課程

解析して、制する
病態解析、薬効制御のスペシャリストを育てる



近年社会的要求性、緊急性の高いがん、老年病の診断治療を念頭に、代謝改善・代謝制御に基づく薬効制御、病態解析・病態診断に基づく薬物治療に関する最先端の研究・技術について考える。これらを通して超高齢社会に対応する個別化医療、経済性に優れた医療に関する最新の高度専門的知識を習得する。また、学会・講演会などに参加し、課題研究で得られた成果を発表・討論することにより、効果的、効率的な医薬品開発を行うための能力を身につける。

教育研究内容

医療の発展に伴い体内の様々な機能異常の検出、病態の解析は治療方針の選択、決定に不可欠のものである。特にがんや様々な神経疾患の早期診断、早期治療は今日の超高齢社会において喫緊の問題である。これらを踏まえて病態特性に基づく選択的な薬物移行性を示す新しい放射性診断薬剤、造影剤などの研究開発の方向性と問題点、それらを用いた臨床研究、臨床診断の現状、またはその特性を利用した薬物治療の動向について考察する。

種々の疾患に関与する因子の特性を解説し、治療戦略を練るうえで何が重要かを考える。例えば、細菌感染症に関連する因子、ヒト細胞への毒性低減を狙った抗菌剤、低酸素分圧感受性の放射線増感剤、抗がん剤、薬物代謝酵素などのタンパク質や低分子化合物について、それらの機能を発現するために如何なる構造上の工夫があるのか動的な構造を踏まえて、薬効を発現する分子を設計する際に留意すべき視点について理解を深める。

中枢神経系と内分泌系と免疫系のネットワークは生体の恒常性の維持に関わっている。ストレスはそのネットワークに影響を及ぼし、ストレス性疾患の誘導、又は様々な疾患を悪化させる。これらの観点から、ストレス性疾患に関わる視床下部-下垂体-副腎系の調節機構やストレスによる神経変性疾患の悪化や加齢肥満-メタボリック

クシンドロームへの進展について神経核、関連分子、遺伝子発現調節機構などについて考える。

脳の発生や細胞分化、損傷後の組織・器官のたどる運命、再生促進と機能回復について論理的な考え方を習得し、包括的な再生に必要な細胞生存・修復機構、エピジェネティクスな遺伝子表現機構、再生阻害環境の克服と神経回路再建のメカニズムについて考察する。さらにES細胞・iPS細胞を使った再生戦略や創薬研究を学び、最新の神経修復・再生から回路再建と機能修復の現状と課題を理解する。

4年制博士課程カリキュラム

〈博士課程〉授業科目

病態画像診断学特論／薬効分子設計学特論／神経内分泌・栄養学特論／神経再生薬学特論／老化制御学特論／病態解析・薬効制御学演習 など30科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
飯田靖彦	病態特性に基づく選択的薬物移行を利用した臨床画像診断薬・治療薬の開発
大倉一人	病態関連因子の動的構造解析、エネルギー代謝制御と薬効制御
藤川隆彦	脳への神経栄養サプリメント・エゾウコギ等を用いた自律神経の安定化(抗不安作用)を活用した記憶・学習向上研究
郡山恵樹	中枢神経の修復・再生促進化化合物の探索とメカニズム解析
古川絢子	加齢性神経変性疾患の発症・進展のメカニズム解明と治療標的分子の探索

薬物治療設計・管理学分野

4年制博士課程

最適な薬物治療を提案できる
スペシャリストを育成



新薬開発はめざましく、各種疾患において治療効果は飛躍的に向上しています。本分野は、患者に最適な治療法は何かを探求し、少子高齢化を見据えた薬物投与設計に対して専門的知識を駆使でき、医療現場で指導的役割を担うことができる人材養成を目指します。

教育研究内容

薬剤師は、医薬品適正使用を支援し、効果的で安全性の高い薬物治療管理を施行する責務があります。2023年日本の高齢化率は、29%を超えており、平均寿命も延伸しています。その一方で新薬の選択肢も増えており、ライフステージに応じた個別最適化による薬物治療に長けた指導的薬剤師の役割は非常に大きいものといえます。従って、本分野では、加齢がもたらす精神・神経系疾患や免疫系疾患、感染症、さらにはQOLに深く関連する皮膚疾患を中心として、基礎研究から臨床応用への橋渡しが可能な教育・研究を展開していきます。また、急性期から慢性期までの幅広いスペクトルで応用できる知識の構築を目指します。医療現場では、チーム医療の実践が定着しているため、カリキュラムは、最大限に薬効を発揮させる薬物投与設計能力と副作用を未然に回避できる臨床的思考が身につく内容構成になっています。

4年制博士課程カリキュラム

〈博士課程〉授業科目

老年病態薬学特論／生体分子解析学特論／感染制御学特論／免疫制御薬学特論／ゲノム治療学特論／薬物治療設計・管理学演習など30科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
大井一弥 定金 豊	炎症性疾患による皮膚生理機能破綻と治療法確立に関する研究 神経変性疾患に関わる生体分子の老化分析および相互作用解析法の開発
中山浩伸 西田圭吾 及川弘崇	病原真菌の環境適応の分子機構の解明 栄養素における免疫制御機構解明とその応用に関する研究 発達過程における表現型の可塑性とその制御の研究

医薬品解析・開発学分野

4年制博士課程

幅広い知識を備えた
医薬品解析・開発の
スペシャリストを育成



医薬品となる可能性を秘めた成分の解析と開発は薬学研究の重要な使命の一つです。本分野では、様々な疾患に有効な医薬品成分を探索し、また既存医薬品の新しい機能を発掘するなど、新規の医薬品を創製するための研究と開発を系統的に学びます。また、病気の発症を予防する機能性食品の開発も重要であり、新しい生理活性物質の探索にも積極的に取り組みます。

教育研究内容

本分野では、
(1)心血管障害・脳血管障害・播種性血管内凝固症候群などの血栓症の発症機構の解明、その治療法・予防法の開発、
(2)がんや老化を防ぐ有効な機能性食品に含まれる生理活性物質の探索と新規機能性食品の開発、
(3)最新の抗体改変技術を用いたがんやアルツハイマー病などの神経変性疾患を標的とした抗体医薬品の解析と開発、
(4)金属錯体を用いた創薬研究と開発、
(5)がんに関連する金属錯体の細胞内外への輸送機構や細胞内動態の解明などを課題とした教育研究を行います。
これらの教育研究を通して、目的とする医薬品や機能性食品の解析と開発に必要な具体的な研究計画・方法を策定できる実力を養成するとともに、研究活動の倫理性や薬学的・社会的意義を学びます。

4年制博士課程カリキュラム

〈博士課程〉授業科目

抗血栓薬開発学特論／食品生化学特論／抗体医薬品開発学特論／無機医薬品開発学特論／生物無機化学特論／医薬品解析・開発学演習など30科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
鈴木宏治 佐藤英介 田口博明 米田誠治 植村雅子	血栓症の分子病態解析と抗血栓性物質の探索研究 機能性食品による活性酸素代謝と老化・がんの制御 ペプチド科学を基盤とした高付加価値抗体作成法に関する研究 遷移金属を用いた抗がん医薬品の開発研究 抗がん作用を有する金属錯体の作用機序に関する研究

社会環境薬学分野

4年制博士課程

がん予防、精神衛生など
超高齢社会に対応する
薬学的思考をもった研究者の養成



本分野では、社会・環境と疾病との関わりについて多角的に研究・解析し、理解していきます。特に超高齢社会をむかえた現代、がんや認知症に対する予防と治療が大いに期待されています。がん予防を目指したバイオマーカーの開発や食品成分の探索、認知症をはじめとした精神疾患に対する薬物療法の適正化などに焦点を当て、実験的手法ならびに疫学的手法により予防医学や薬物療法に影響する環境要因を探り、解決の道を探ることを目的とします。

教育研究内容

本分野では、次の3本柱で教育研究に取り組みます。

(1) 本邦の死因第1位である「がん」について、発がんの機序から検査／診断／治療薬まで、さらに化学予防の可能性について総合的に総括できるようにする。

(2) 精神科2大疾患である統合失調症とうつ病、更に超高齢化により増加している認知症を取り上げ、薬物療法の適正化について研究し、より良い薬物療法の発展を目指す。

(3) 科学技術の発展に伴い増加している新規の医薬品や環境化学物質について、その作用・影響を疫学的手法を用いて評価することの意義／重要性を学び、実践できるようにする。

本分野では、社会・環境と疾病との関わりのうち、特に「がん」「精神疾患」、それらの研究手法として欠かせない「疫学」について学びます。さらに、研究指導教員のテーマの下、個々の課題を探究することにより、専門的かつ実践的な能力を修得し、自立した研究者・薬剤師となることを目指します。

4年制博士課程カリキュラム

〈博士課程〉授業科目

腫瘍薬学特論／医薬品情報解析学特論／精神衛生薬学特論／環境・薬剤疫学特論／社会薬学特論／社会環境薬学演習 など30科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
三輪高市	精神科用薬の適正使用に関する研究
榎屋友幸	薬物治療における臨床疑問の解決に向けた研究
坂 晋	薬剤・環境による胎児毒性に関する疫学研究
森 尚義	ヘルスリテラシーの向上に関する研究
大西志保	がん予防を目指した発がん機構解明とバイオマーカーの研究

医療薬学教育部

4年制博士課程

医療薬学研究の基本スキルである
フィジカルアセスメント実習と
症例解析演習を行います



フィジカルアセスメント実習を通して、臨床現場において患者さんから医療薬学研究に資する情報を取得する手技の基本を学びます。

症例解析演習を通して、患者さんから得られる情報を統合する手法の基本を学びます。

教育研究内容

医療薬学研究は患者さんからデータを集積する事から始まります。患者データは問診記録・診察記録・検査データなどからなりますが、診察所見は最も患者さんに密接するデータであり臨床研究の中核になるデータです。従って臨床研究に従事する薬剤師は診察記録の理解だけでなく、非侵襲的なフィジカルアセスメント手法の基本を習得する必要があります。またこの手法は臨床研究のみならず、日常臨床業務における薬剤副作用の早期発見に不可欠な手技でもあります。この観点から薬学研究科では、高機能病態シミュレータ3機種を使用したバイタルサインデータ取得・心音聴取・肺音聴取、心電図記録並びに解読、呼吸機能検査並びに解読の実習を行います。またアドバンスの実習としてTDM用サンプル取得のための採血実習を2種の採血シミュレータを使用して実施します。医療薬学研究にはその基礎的素養として、患者データから患者状態を統合的に思考する能力が求められます。この臨床的問題解決能力の育成のため、少人数セミナー形式でNew England Journal of Medicine掲載の症例を教材として症例検討を行います。これらの実習・演習を通して臨床薬学研究に不可欠な基礎的スキ

ルと臨床データ解析能力の醸成を図ります。

4年制博士課程カリキュラム

〈博士課程〉授業科目

実践的医療薬学演習／フィジカルアセスメント学内実習／フィジカルアセスメント臨床実習

●教員一覧

教員名
伊奈田宏康、八重徹司、林 雅彦

医療科学研究科 医療科学専攻

修士課程(定員30名)
博士後期課程(定員5名)

医療科学研究科医療科学専攻では、日々進歩し発展する医療技術に対応することができる柔軟な適応力と、より高度な知識技術をもつ医療人を育成する教育を行います。併せて、医療系の多くの分野を網羅しているという本学の特徴の利点を活用して、他分野のスタッフとも協力しチーム医療の担い手として活躍できる人材教育を行います。このような教育を通じて、地域医療を担う各種の医療機関や医療系企業で、即戦力になり、かつリーダーとして活躍できる幅広い能力を備えた高度専門職医療人の養成を目指します。

医療科学専攻には、11の専門分野すなわち、放射線情報学、医療栄養学、臨床検査学(細胞検査士資格取得コース)、理学療法学、作業療法学、医療福祉学、臨床心理学(公認心理師・臨床心理士資格取得コース)、鍼灸学、臨床工学、医療情報実践学、看護学を設置しています(次頁以降参照)。修士課程・博士後期課程とも、個々の学生はこれらのどれかを主分野として、各分野および共通分野の約80(修士課程)の授業科目から幅広く履修することができます。また、主分野に関わる修士論文研究や博士論文研究を行い、最後に論文作成と審査会を経て修士・博士の学位を取得します。

社会人学生を多く受け入れていることを考慮して、働きながら学べるように、週末に行う集中的な授業や、勤務先や自宅でもできる論文研究課題の設定など、さまざまな体制が整えられています。



放射線情報学分野

修士課程

博士後期課程



放射線科学の研究・教育を通じて、医用画像処理、医用画像情報の管理について理解を深めます。それと共に、これまでの診療放射線技術学の知識・技術に基づいて科学的かつ体系的に学びます。また、放射線領域を取り巻く環境や融合的教育にも焦点を当て、新たな知見を見出すことを目的とします。

教育研究内容

医用画像応用の分野は一般撮影、消化管造影、血管造影、MRI、CT、核医学、超音波等各種のモダリティがそれぞれに飛躍的な進歩を続けています。高度X線画像システムの技術的発展動向から、医用機器の法・規格の国際的動向にも関心を払い、真に診療に役立つ次世代の医療システムを洞察します。特に脳・心血管等循環器系の疾病診断領域は機器ハード及びソフト面の多様な変貌を見て、その全容を理解するには放射線生物学・物理学から再生医学、画像情報学分野まで学際的アプローチが必要とされています。日常診療で疾病の診断に必須な位置づけである医用画像、特に放射線情報学分野では広い知識と柔軟な思考の涵養を図るべく多彩なカリキュラムを用意しています。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医療科学特論／臨床医療科学特講／外書講読 など12科目

●放射線情報学分野
診療放射線研究方法論／画像処理特論／核医学特論／画像解剖学特論／診療放射線教育学特論I／診療放射線教育学特論II／キャリア・リーダーシップ開発特論／放射線生体応答学特論

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通
医療科学研究法論究／科学論文技法論究 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
武藤裕衣	診療放射線技師および養成教育開発と評価、e-learningによる学習支援 放射線安全管理
山下剛範	物質が放射線・化学物質影響を緩和・防護する分子機構の解明
中倉幸司	核医学検査および循環器領域に関する研究

医療栄養学分野

修士課程

博士後期課程



医療の分野に立脚した
栄養学のプロを育成

21世紀の医療は治療から予防へ。
予防医学で大切なのは 食、運動、心。食の問題はこうして限りなく医療分野に近づいています。
医療系に立脚した管理栄養士教育を行っている大学の大学院として、
病院や企業、研究・開発機関から希求される人材を育てます。

教育研究内容

近年、管理栄養士が参画する栄養サポートチーム(NST)による適切な栄養管理により病院での治療効果が大きく上がっており、治療医学における栄養の重要性が示されつつあります。一方、21世紀の医療は治療から予防へと大きくシフトしており、病気にしないための栄養管理の重要性も再認識されつつあります。

本分野では、栄養学を基礎とし、栄養素の疾病回復や進行の抑制に及ぼす効果や健康維持・増進のための重要性の解明など、疾病治療や健康維持・増進に向けた新たな手法の開発を目指します。栄養学、分析化学、生化学、微生物学、免疫学、有機化学、分子生物学、臨床検査学と様々な専門分野の研究者が集い、力を合わせて研究を行うと同時に、栄養学的立場から疾病の治療や予防に貢献できる人材を育てます。

本分野を主分野とする学生は、本分野の講義を受け、より高度な専門知識を修得し、他分野の講義を受け、幅広い知識を養います。さらに研究指導教員のテーマの下、輪講や特別研究を通して、修士課程では高度な技術やデータ分析力や考察力、そして議論をするために必要な表現力や会話力を体系的に養います。博士後期課程では、研究者・専門家としての自立を目指し、問題点を見極め、その解決のための計画を立案・推進し、その成果を研究論文として国際誌に公表するための実践技術と能力を養います。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医療科学特論／臨床医療科学特講／医療安全管理学特講／外書講読 など12科目

●医療栄養学分野

病態栄養学特論／機能性高分子特論／生体化学特論／
内分泌代謝栄養学特論／分子・細胞栄養学特論／食品機能・栄養生化学特論／
公衆栄養学特論

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通
医療科学研究法論／科学論文技法論 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
三浦俊宏	2型糖尿病の病態解析および食事療法、運動療法の併用効果
若林成知	新規な自己集積型有機分子の設計と合成、物性
棚橋伸行	食品廃棄物を利用した食品加工品の製造法の確立と食中毒などを抑制する食品成分の探索
山口太美雄	食品成分による生体内効果発現機構の分子・細胞生物学的解析
植松 淳	細胞接着装置の分子構築とそれらの構成タンパク質の機能の解析
大槻 誠	ライフステージ別の健康増進における食と栄養に関する公衆栄養学的研究

臨床検査学分野

修士課程

博士後期課程



診断・治療だけでなく、
予防にも精通した国際社会で
活躍できる臨床検査学のプロを育成

21世紀の医学・医療は、診断・治療から予防へ。
個別化医療と個別化予防に向けて高度検査技術の修得。
医療機関だけでなく、教育や研究・開発機関、企業から希求される人材の育成。
世界に羽ばたく医学・医療の研究者・高度専門家の育成。

教育研究内容

近年、医療は急速に進歩し、また、科学的根拠(エビデンス)に基づいた診断・治療がより求められる上に、予防医学の重要性も高まり、より広く、より高度な臨床検査技術の必要性が増しています。また、医学・医療人には知識や技術だけでなく、豊かな人間性や深い教養、他分野と協調できる社会性、および医療人としての倫理性も求められます。臨床検査学分野では、高度な臨床検査技術の修得、疾病の原因や病態の解明、疾病治療や健康維持・増進に向けた新たな検査手法の開発を目指します。臨床血液学、生体試料分析学、分子細胞生物学、病理組織細胞学を中心に、生化学、免疫学、生理学、微生物学、栄養学、食品学、有機化学など様々な専門分野の研究者と集い力を合わせて研究を行うと同時に、医療機関だけでなく、研究、教育、医療関連企業、生命科学情報分野等で活躍出来る人材の育成を目指しています。

本分野を主分野とする学生は、本分野の講義を受け、より高度な専門知識を修得し、他分野の講義も受け幅広い知識を養います。さらに研究指導教員のテーマの下、輪講や特別研究を通して、修士課程では、情報を収集してまとめる技術、高度な実験・検査技術、データの分析力や考察力、そして議論をするために必要な表現力や会話力を体系的に養います。博士後期課程では、研究者・専門家としての自立を目指し、問題点を見極め、その解決のための計画を立案・推進し、その成果を研究論文として国際的に公表するための実践技術と能力を養います。そして、両課程を通じて医学・医療人としての、社会人としての素養を磨きます。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
臨床医療科学特講／医療倫理学特講／医療安全管理学特講 など12科目

●臨床検査学分野

臨床検査学特論／臨床化学分析特論／免疫生物学特論／分子遺伝学特論／
病理組織検査学特論／分子細胞病理学特論／細胞診検査学特論／
細胞診検査診断学実習

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

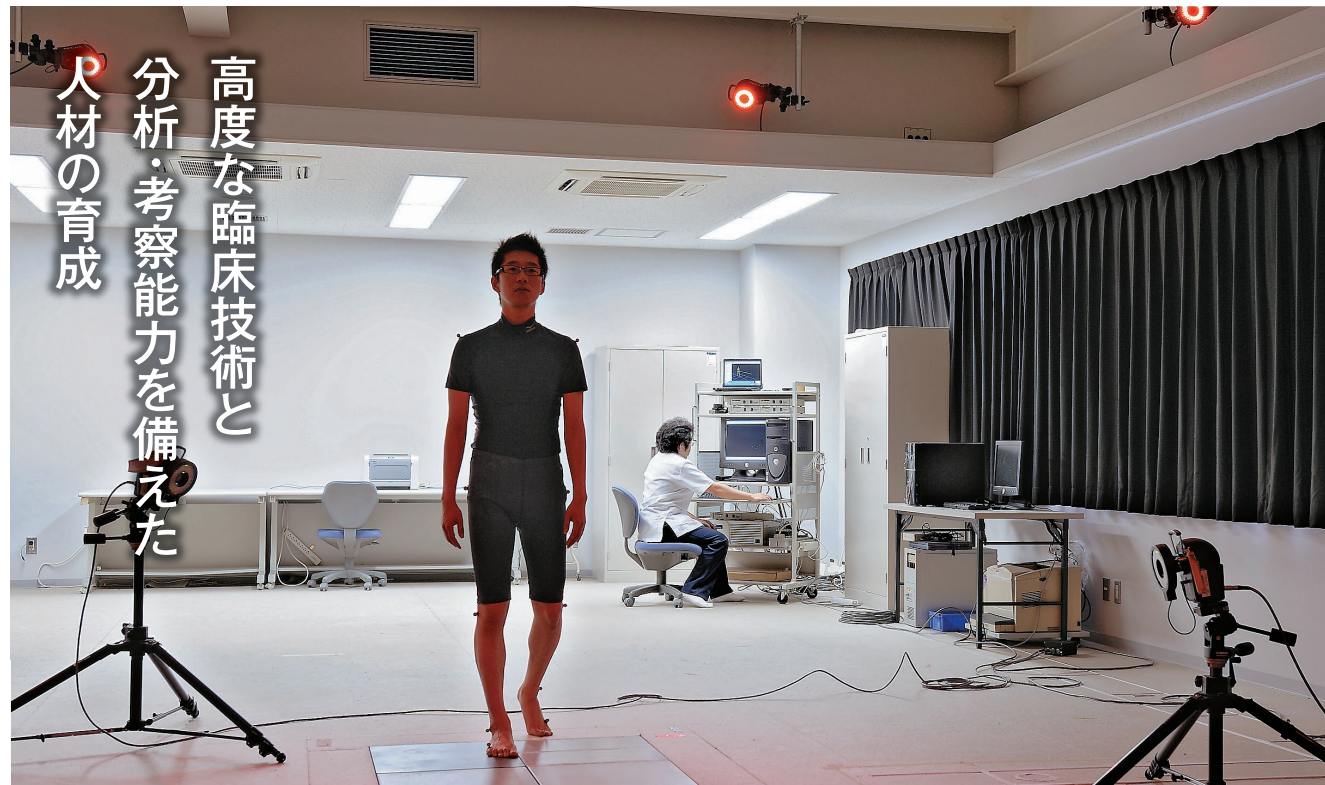
●専攻共通
医療科学研究法論／科学論文技法論 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
森下芳孝	蛋白・糖・脂質等の生体内成分の分析と定量法の開発
熊取厚志	食細胞の発生・分化と異物処理機構、それらへの食品成分の影響
米田 操	膵がんの細胞診断や予後判定に有用な細胞病理学的検査法の開発
金山和樹	がんの遺伝子異常と不均一性ならびに治療抵抗性を引き起こすメカニズムの解明

理学療法学分野

修士課程
博士後期課程



高度な臨床技術と
分析・考察能力を備えた
人材の育成

理学療法学は臨床科学です。
本分野では患者、障がい者、高齢者にとって「役に立つ」成果を目指して研究し、
そのために必要な1.「情報を文献からレビューする能力」、2.「計測、分析能力」、
3.「考察、プレゼンテーション能力」の3つの能力を教授しています。

作業療法学分野

修士課程
博士後期課程



科学的根拠に基づき臨床現場で
活躍できる人材を育成

臨床および基礎分野における作業療法について科学的根拠(エビデンス)を探究し、臨床現場で応用で
きる能力を身につけることを目的とします。自らの作業療法の問いを解決していくプロセスを経験するこ
とで専門的な作業療法士を育成します。

教育研究内容

・修士課程(1年次)

これから臨床で行う研究テーマについて、徹底した調査、
レビューを行います。臨床研究の基本はレビューですので、
半年以上かけて文章推敲能力もブラッシュアップします。
完成したレビュー論文が修士論文の序論となります。
文献レビューと同時進行で、臨床での計測技術を習得します。
例えば、モーションキャプチャ、筋電計、足圧分布計等を使用しま
す。学内で卒研生と協力し、健康者で計測のトレーニングを行いま
す。

・修士課程(2年次)

臨床で自らの患者さんを対象に計測、分析を行います。
結果は専門分野の学会で発表します。
学会発表の準備作業を通じて、考察、プレゼンテーション能力の
トレーニングを行います。

・博士後期課程

修士課程での研究成果に基づき、観察研究、介入研究を進めます。
さらに研究論文執筆のトレーニングを行います。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
臨床医療科学特講／医療倫理学特講／外書講読 など12科目

●理学療法学分野

運動制御学特論／臨床生体力学特論／運動機能障害学特論／
理学療法メカ／バイオロジー特論／徒手理学療法学特論／
リハビリテーション教育学特論

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通

医療科学研究法論究／科学論文技法論究 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
畠中泰彦	運動器疾患の運動力学解析、運動学、運動力学手法による 運動療法、装具の開発
浅田啓嗣	関節障害の発生と予防に関する研究、 運動機能障害に対する理学療法手技の効果に関する研究
笹井宣昌	骨格筋の構造・機能の可塑性変化における機械刺激の意義と 関連メカニズムの解明

教育研究内容

・修士課程

クリニカルクエストおよびリサーチクエストを基に、大学院
で実施する研究テーマについて文献レビューをおこないます。研究
テーマに対して既に明らかになっていること、未だ明らかになってい
ないこと、研究の新規性、研究の意義・目的に関する検討をおこな
い、研究テーマに関する背景を洗練していきます。
文献レビューと同時に研究手法を学んだ上で予備的研究を実施
し、研究の実施可能性、課題、工夫すべき点を検討します。
研究実施後は、結果の示し方・解釈、考察、限界を丁寧に検討し、
専門学会および大学院発表会を通じてプレゼンテーション能力向
上を図ります。(修士論文で取り組んだ内容は査読あり雑誌への投
稿を目指します)

・博士後期課程

修士課程での研究成果に基づき、研究テーマを更に充実・発展さ
せていきます。特に新規性、社会的インパクトについてより洗練して
いきます。博士後期課程における研究は査読あり雑誌(英語雑誌)
での掲載に向け取り組んでいきます。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
臨床医療科学特講／医療倫理学特講／外書講読 など12科目

●作業療法学分野

作業療法理論学特論／作業活動生体反応学特論／作業機能障害支援学特論
／地域作業療法支援学特論／高齢期作業療法支援学特論／作業療法政策特
論／発達過程作業療法学特論／小児リハビリテーション学特論／
リハビリテーション教育心理学特論

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通

医療科学研究法論究／科学論文技法論究 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
美和千尋	作業療法のモデル適応と作業活動の生体反応に関する研究
藤井啓介	予防的作業療法に関する研究、作業機能障害に関する研究、生活リ ズムに関する研究

医療福祉学分野

修士課程
博士後期課程

医療と社会福祉との橋渡しができる
スペシャリストの育成



社会福祉は、人間関係諸科学を駆使し、人と環境との間に介入して問題解決を目指す科学であり、高度な知識と技術が求められます。グローバルな視点を保ちつつ、一人ひとりの幸せを生み出す具体的方法を考えます。研究を通して、医療、法制度、地域開発など近接領域に強いソーシャルワーカーを目指します。

臨床心理学分野

(公認心理師・臨床心理士資格取得コース) 修士課程

こころの問題を抱える人たちに
寄り添い、向き合い、深く理解し
支援する「こころの専門家」を育成



こころの問題を抱えケアを必要としている人たちが増加し、専門的支援が求められています。それに応えるのが公認心理師・臨床心理士の資格をもつ「こころの専門家」です。臨床心理学分野では、高度な専門的知識と実践力を身につけ、現場で役立つ「こころの専門家」の育成を行っています。

教育研究内容

医療福祉学分野では、次の3つの方向で研究に取り組みます。
第一は、社会福祉政策の国際的動向の把握に努めます。
第二は、医療と社会福祉、法制度と社会福祉、地域開発と社会福祉など近接領域と社会福祉の接点を強く意識し、学際研究を発展させます。
第三は、研究に並行して相談援助技術の向上を目指します。
医療福祉の研究は、修士課程においても、博士後期課程においても、社会福祉実践を足場にし、人に温かく、血の通ったものでなければなりません。大学院では、論文作成、学会発表などを通して科学研究の手法を学びますが、それだけでなく社会福祉の現場で視野の広い人材、よりよい援助者として役に立つような総合的教育を行います。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医療科学特論／医療倫理学特講 など12科目

●医療福祉学分野

医療福祉経営学特論／福祉専門職特論／医療福祉学特講／地域包括医療・福祉特論

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通

医療科学研究法論／科学論文技法論 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
藤原芳朗	医療福祉に関する理論と実践の研究
松浦 信	社会福祉における専門職化に関する研究
澤田 如	ケアの質の向上に向けた取り組み、介護負担

教育研究内容

- 個を大切に「ひとりのクライアントに寄り添い、向きあい、深く理解をしていけるように、「こころを聴く力」を身につけていきます。クライアントがこころ豊かに成長し、主体的に健康的に生きていけるような支援を目指し、アセスメントとカウンセリング(心理療法)のスキルを磨いていきます。臨床心理学は「実践の学」と言われますが、本学では修士論文は自らが担当した事例をもとにした事例研究を推奨しています。個々の事例から学ぶものは多く、さらに現代に生きる私たちのこころの本質を理解することにつながります。
- 実践力を養う「こころの専門家」として心理臨床の仕事に就き、実践できる力を身につけていきます。大学院生は、本学附属こころの相談センターで来談されたクライアントの面接やプレイセラピーを実際に担当しカウンセリング(心理療法)を行います。また、附属こころのクリニックや桜の森病院(緩和ケア)の他、外部実習では精神科病院や総合病院などの医療領域、教育支援センターや学校などの教育領域、養護施設や児童センターなどの福祉領域、少年鑑別所などの司法領域等、様々な機関でアセスメントや多職種連携等の臨床経験を積んでいきます。
- 教員と共に学びあう:臨床心理学分野の教員全員が、公認心理師・臨床心理士あるいは精神科専門医の資格をもち、教員自身も大学附属施設(こころの相談センター、クリニック、桜の森病院)等にて心理的支援を行っています。実践経験豊富な教員によるスーパーヴィジョンを受け、ケースカンファレンスではひとつの事例を取り上げ丁寧に見ていき、教員と大学院生が活発なディスカッションをしながら理解を深め事例対応に活かしていきます。

修士課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医療科学論講(修士)／医療科学特別研究(修士) など3科目

●臨床心理学分野

臨床心理学特論I・II／臨床心理面接特論I・II(心理支援に関する理論と実践)／臨床心理査定演習I・II(心理的アセスメントに関する理論と実践)／教育心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)／家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)／犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と実践)／障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)／精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)／健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)／心理統計法特論／臨床心理学研究法特論／人格心理学特論／投影法特論／心理療法特論／心理実践実習 など

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
渡部千世子	障害や難病をもつ子どもと家族の関係発達、家族療法、心理検査(TAT)
大橋 明	高齢者に対する心理的支援・宗教性に関する研究
綾野 眞理	臨床動作法、学生相談
中西 健二	がん患者・家族に対する心理的支援、医療コミュニケーション

鍼灸学分野

修士課程

博士後期課程



鍼灸のメカニズムを探究し、基礎的かつ臨床的な研究方法を身につけ、「鍼灸研究者」としての基本を確立します。鍼灸師を対象に、臨床的な技術を持ち、治療効果を向上させる「高度臨床鍼灸師」の育成を目指します。東洋医学をはじめ、鍼灸の真髄をよく理解し、「チーム医療スタッフ」として活躍できるよう指導します。

教育研究内容

鍼灸学について臨床的知識と技術を深め、鍼灸に関する研究能力を養います。
鍼灸学分野では 3つの専攻分野(鍼灸臨床技術学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、鍼灸技術学特論、実験鍼灸学)があります。鍼灸臨床技術学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、臨床実習施設においてWHOの定めた鍼灸適応症に対する科学的根拠に基づいた鍼灸治療術、難病の古典的な治療方法及び健康維持法などを習得します。鍼灸技術学特論では、クリーンニードルの開発、鍼レオメータの開発などの学習を通じて鍼灸術の客観化について研究します。実験鍼灸学は、動物実験により鍼灸学の基礎研究アプローチについて修得する課程です。このような教育を通して、鍼灸治療効果の機序の解明、効果の客観的評価法の確立、臨床研究アプローチなどについて研究指導を行います。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医療科学特論／臨床医療科学特講／医療倫理学特講 など12科目

●鍼灸学分野

鍼灸臨床技術学実習Ⅰ／鍼灸臨床技術学実習Ⅱ／鍼灸臨床技術学実習Ⅲ／鍼灸技術学特論／実験鍼灸学

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通

医療科学研究法論／科学論文技法論 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
浦田 繁	鍼灸刺激のストレス緩和作用
川ノ口 潤	東洋医学(漢方・鍼灸治療)を用いたうつ病等の神経・精神疾患の改善作用

臨床工学分野

修士課程

博士後期課程



医療機器、特に生命維持管理装置と呼ばれる治療用医療機器に関する高度な知識を有し、医療安全対策を考案できる臨床工学の専門家を育成します。
多様な医療技術における問題を広い視点で把握し、医療チームの一員として問題解決を図る能力を養います。研究テーマとしては臨床工学・医用生体工学領域における多彩なテーマを用意しています。

教育研究内容

講義履修を通じて臨床工学分野の専門的知識および医療科学の諸領域における幅広い知識を修得します。研究指導教員の丁寧な指導の下、研究テーマの設定、研究方法の検討、実験、臨床データの取得などを行い、研究を進めていきます。臨床工学科の所有する豊富な実習用機器を利用することもできます。輪講での発表と討論、関連する学会・研究会での発表を通じて、プレゼンテーションスキルの向上を図り、研究内容を充実させていきます。本分野では臨床工学・医用工学を専門とする教員のみならず医療科学諸分野の教員と自由なディスカッションができます。これは工学と医学の境界領域の職種である臨床工学技士にとって大きなメリットといえます。本分野では、臨床工学系の学科を卒業する学生の方をはじめ、広く臨床工学・医用工学に興味を持つ方々を歓迎します。専門学校を卒業して現役の臨床工学技士として活躍している方のキャリアアップの道としても最適です。修了後は、指導的立場の臨床工学技士、研究者、教員などのキャリアを目指します。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医療科学特論／外書講読／医療安全管理学特講 など12科目

●臨床工学分野

生体信号処理特論／肺循環機能学特論／電気生理学的治療機器特論／生体システム工学特論／医用電気・電子工学特論／人工臓器医工学特論

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通

医療科学研究法論／科学論文技法論 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
伊原 正	高分子電解質膜を用いた生体用アクチュエータ・センサーの開発
鈴木彰文	肺音・透析シャント音などの生体音の計測と信号処理
丸山淳子	肺高血圧症の病態生理と治療
高 英聖	数値最適化法とシステム生物学への応用
三浦英和	人工臓器医工学

医療情報実践学分野

修士課程
博士後期課程



医療の様々な分野で
要求される
情報処理や分析ができる
人材の育成

グローバル化の時代を生き抜く必須の力。
それは…情報の本質を見抜き処理する能力、全体を統率する能力です。
医療情報実践学分野は、保健・医療・福祉の世界で情報を取り扱う
上級専門職となる人材を育成します。

看護学分野

修士課程
博士後期課程



科学的な思考力、実践力、教育力、指導力を養い
リーダーシップを発揮できる
看護実践者や臨床教育者を育成

看護学分野では、①科学的根拠に基づき探求・研究・応用する能力、②ヒューマニズムと倫理観を有し看護実践する能力、③看護職を適切に指導・教育する能力、④看護実践を評価し改善する能力、⑤地域包括ケアシステム促進に向けて適切に調整・連携する能力を有する看護のスペシャリストを育成します。

教育研究内容

医療情報システム並びに医療情報処理に関して高度な知識を有し、研究開発や分析の能力を養い、総合的な視野を持ち医療分野で直面する様々な問題を解決していくことができる人材を育成します。
修士課程1年次において、医療統計や医療情報解析並びに情報処理技術など医療情報を取り扱うために必要となる基礎を学び、与えられた研究テーマに関する文献を読むことで研究テーマに関する理解を深め、研究の方法について学びます。理解が深まった中から自分の研究テーマを見つけ、それが修士論文の核となります。そしてその内容について研究を深め、2年次には研究成果を学会で発表することになりますが、その過程で論文の書き方やプレゼンテーション能力を磨きます。これらは、研究指導教員の丁寧な指導の下で進められます。
博士後期課程においては、学生の希望を中心により実践的な研究テーマを取り上げ研究と論文執筆を指導し、その分野の第一線で活躍できる人材育成を目指します。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療科学特論／医療倫理学特講 など12科目

●医療情報実践学分野

データ解析学特論／医療情報システム特論／画像認識システム特論／知的情報処理特論／上級情報処理実践

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通

医療科学研究法論究／科学論文技法論究 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
鶴岡信治	医療健康データを対象とした人工知能または統計解析に関する研究
窪田英明	巡回セールスマン問題を遺伝的アルゴリズム等で解く基礎研究
内藤道夫	多職種における情報教育の在り方に関する研究
吉川大弘	統計的アプローチまたは人工知能手法による医療データ解析に関する研究
アイニョンジョ	機械学習と画像情報処理を用いた生体信号等からの知的情報処理

教育研究内容

看護学分野では、看護実践者や臨床教育者を育成します。
科学的根拠に基づき探求・研究・応用する能力を修得するために「看護研究方法論」では、質的研究法、量的研究法やミックスメソッドについて学習します。
さらに、「看護理論」「ヘルスアセスメント特論」「リーダーシップ特論」の中から看護実践者や臨床教育者の育成を支援するための基盤となる科目を学習し、科学的根拠に基づく実践・教育力を修得します。そして、「看護実践教育学特論」では、看護専門職の継続教育の考え方と方法について理論的根拠に基づいて学習し、医療機関、教育機関において教育的役割を担うために必要な能力を修得します。「看護実践支援特論」では、看護現象を分析し、「看護実践支援演習」では、臨床問題の解決に向けた支援計画の立案を行います。「看護実践支援実習」においては、理論をベースにした課題の分析と支援計画を立案し、実施、評価を行います。これらの学びを通して、自らの研究課題を明らかにし修士課程における研究に取り組みます。
博士後期課程では、修士課程で培った研究成果をより探求し、看護学を実践の科学として発展させ社会に貢献できる能力を養います。

修士課程・博士後期課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
医療科学特論／臨床医療科学特講／医療安全管理学特講／医療倫理学特講 など12科目

●看護学分野

看護理論／看護研究方法論／看護倫理／リーダーシップ特論／ヘルスアセスメント特論／看護実践教育学特論／看護実践支援特論／看護実践支援演習／看護実践支援実習

〈博士後期課程〉授業科目

●分野共通
医学統計特論／医療倫理学特講／医療科学特論 など6科目

●専攻共通

医療科学研究法論究／科学論文技法論究 など4科目

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
倉田 節子	小児看護実践の質評価、人材育成に関する研究
伊藤 薫	地域包括ケア従事者を対象とする健康生成論を基盤とした人材育成プログラムの開発およびその評価研究
江口 秀子	クリティカルケア看護、救急看護に関する研究
國分真佐代	周産期メンタルヘルス、母親の養育意識に関する研究
田中 和奈	認知症高齢者ケア、高齢者の疼痛管理に関する研究
辻川 真弓	がん看護に関する研究・緩和ケアに関する研究、QOLに関する研究
中井三智子	難病患者の療養支援
萩 典子	労働者・若年無業者の精神健康に関連する要因

細胞検査士資格取得コース

修士課程

高い技術と実践的能力を有した
細胞検査士を育成



細胞検査士資格取得コースでは、細胞形態学の研究・教育を実践して、各疾患の細胞形態を理解しがん診断の理解を深めます。大学院修了時には、日本臨床細胞学会認定資格の細胞検査士、修士の学位取得が可能となります。また、国際細胞検査士の資格取得に向けた教育実践も行います。

教育研究内容

本学大学院細胞検査士資格取得コースでは、正常細胞、異型細胞、がん細胞の細胞形態を鑑別する高い技術かつ実践的能力を習得し細胞検査士資格取得を目指します。

細胞検査士は、人体の臓器から自然排出される検体から、がん細胞、または、前がん病変である異型細胞を顕微鏡で観察して見つけだす専門性の高い日本臨床細胞学会の認定資格です。日本では約6000人が細胞検査士免許を取得しています。さらに、本資格は、日本国のみならず、国際的に認められた国際細胞検査士の資格もあり、多くの日本の細胞検査士が資格取得しています。現在では、ヨーロッパ諸国などの海外で活躍している国際細胞検査士もいます。

近年、2人に1人が、何らかの、がんになると言われており、がんは人にとって身近な病気です。細胞検査士は、乳腺、甲状腺などの穿刺材料や喀痰、尿、婦人科スミアなどの検体から、がん細胞、異型細胞を見つけ出し早期発見、早期治療に寄与しています。さまざまな標本から、異型細胞、がん細胞を見つけ出し疾病を探索する技術習得を行います。

修士課程カリキュラム

〈修士課程〉授業科目

●分野共通
臨床医療科学特講

●細胞検査士資格取得コース

細胞診検査学特論／細胞診検査診断学実習／細胞診画像診断学特論／細胞診検鏡実習／細胞診検査実務実習

●臨床検査学分野

臨床検査学特論／臨床化学分析特論／免疫生物学特論／分子遺伝学特論／病理組織検査学特論／分子細胞病理学特論

●専攻共通

医療科学輪講／医療科学特別研究

●研究指導教員一覧

教員名	研究テーマ
米田 操	膵がんの細胞診断や予後判定に有用な細胞病理学的検査法の開発
金山和樹	がんの遺伝子異常と不均一性ならびに治療抵抗性を引き起こすメカニズムの解明

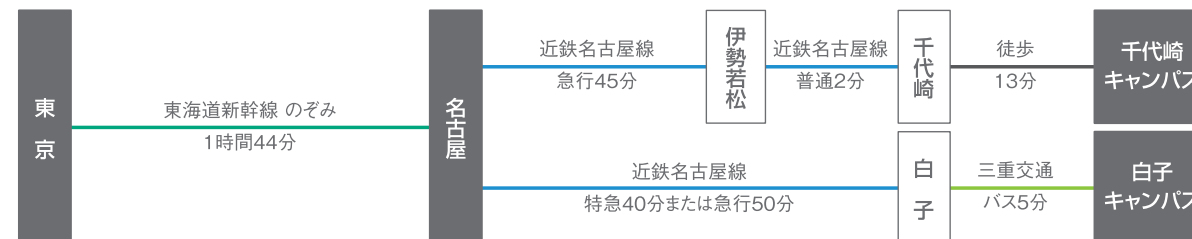
Access Map

アクセスマップ



公共交通機関をご利用の場合

●関東方面からお越しの方へ(東京・名古屋)



●関西方面からお越しの方へ(大阪・京都)



お車をご利用の場合

●名古屋IC(名古屋高速15分) ⇒ 名古屋西JCT(東名阪道23分) ⇒ 鈴鹿IC(35分) ⇒ 本学

※本学までの所要時間は、あくまでも目安であり交通事情などにより、表示時間と異なる場合がございます。

鈴鹿医療科学大学大学院

Suzuka University of Medical Science Graduate School

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001-1(千代崎キャンパス)

〒513-8670 三重県鈴鹿市南玉垣町3500-3(白子キャンパス)

鈴鹿医療科学大学大学院課

☎059-340-0334 ☎059-383-9666

🌐<https://www.suzuka-u.ac.jp>

お問い合わせ先